

地域資源と観光船を活用したまちづくりの取り組みについて

——堺のんびりクルーズを事例に——

久保秀幸・小長谷 一之

1. はじめに

近年、多くの都市では観光に着目して観光政策を行っている。しかしながら、地域の個性を見出し、どのように活用し、集客の魅力を高めるかなどを模索している都市も少なくない。そのような中で、大阪府堺市において地域資源を活かした NPO 法人の取り組みに着目し、地域資源の活かした方、運営状況、活動による効果などを考察する。

2. NPO 法人観濠クルーズ Sakai

2005 年 11 月に NPO 法人として活動をはじめた観濠クルーズ Sakai は、堺市の旧市街地であった堺港、その旧市街地に流れる内川と土居川を活動地域としている（図 1）。この活動地域は、堺市の旧市街地であり、かつて堺市が自治都市・自由都市として環濠が形成されていた名残である（図 2）。この環濠の一部である内川と土居川の河川整備や清掃活動により、ある一定まで水環境が改善されたことにより、環濠及び堺港に観光船を走らせ、堺の歴史的遺産を発掘し、堺のまちを魅力ある観光都市として再生させていくための事業を行っている。また法人理事長 T 氏



図 2 1863 年の環濠（出典：堺市）



図 1 活動地域（大阪府堺市）
出典：堺市資料をもとに筆者作成



写真 1 1970 年頃の内川（出典：堺市）

は、ボーイスカウト出身であることから、水環境を大切にすることを通して自然環境の保全を図り、青少年の健全育成にも寄与することも目的として活動を行っている。

3. 環濠を活かした観光船「堺のんびりクルーズ」

2006年10月から環濠を利用した観光船の運航を開始している。クルーズのコースは、約50分の時間をかけのんびりと運航し、同乗するガイドが環濠周辺の歴史や河に生息している生物の紹介などおこなっている。

(1) 月別運航状況

クルーズ運航は、1年を通して定期的な運航ではなく、3月下旬から6月、9月～11月までの期間で土日祝のみとなっている。また1日に2便から6便（2014年度実績）を運航している。運航時期や便数が限定的となっているのは、海に繋がっている環濠という地域資源を活かしているためで、主に2つの要因がある。1つは、運航中に橋の下を数か所通過する必要があるため潮の満ち引きの関係で通過できない時間帯が生じるためである。2つ目は、橋の下をぎりぎり通過するために船の設備に屋根がなく、暑い時期や冬などは客数が減るためである。

そのような運航環境のなか2013年度の月別運航状況（通常運航のみ）は、図3のようになっている。年間で148便、1920名の乗客数となっている。また1便当たり乗船可能人数は大人18名（小人の場合は0.5名換算）であるが、平均乗客数は13名となっている。春は、川岸に並ぶ桜が普段とは異なる視点で見ることができるということで、桜が咲く時期は乗客数が多い。

(2) 年間乗客数

2006年からクルーズ運航を開始しているが、2008年にクルーズ船を新調し、乗船定員数が20名（船長とガイド含む）になったため、2008年からは乗客数が多くなっている。また通常運航だけではなく、毎年10月に開催される堺まつりにおいては、特別運航（運航コースと乗船料が通常運航とは異なる）により、多くの乗客数がある。天候や潮位により運航便数の制限があるが、概ね毎年2000人程度の乗客数となっている。（図4）



写真2 出航時（堺駅）の状況
（出典：筆者撮影）

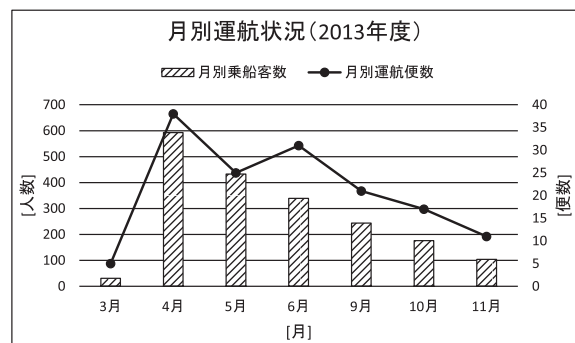


図3 2013年度月別運航状況
出典：法人資料をもとに筆者編集

(3) 乗客数属性

乗客の属性としては、2013年度実績で87%が大人、小人6%、幼児7%であり、そのうち女性客が約57%を占めている。

また、2008年に法人が行ったアンケート調査結果では、年代は60代が一番多く、50代、70代が続いている。市広報やポスター、知人からの紹介でクルーズ運航の情報を得ているため、約80%が堺市在住であった。

理事長 T氏によると、リピーター率は約5%程度であり、近年はホテルにもパンフレットを配布しているため、海外からの乗客もあるという。

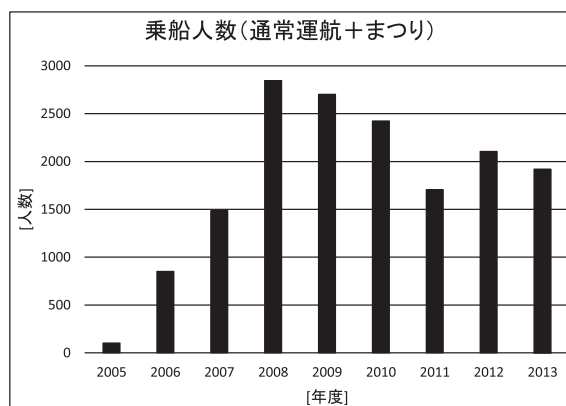


図4 乗船人数の推移
出典：法人資料をもとに筆者編集

(4) 水上ウォッチ

設立趣旨の1つである青少年への健全育成にも力を入れている。新艇が導入されたことで1運航当りの乗船人数を増やすことができたため、2008年度から小学生を対象とした特別運航(無料招待)を行っている。この特別運航は、堺の歴史と内川・土居川の水環境について認識を深めてもらうことが目的である。2013年度の実績では、5つの小学校からの参加があり、計6日間の運航で320名の児童と19名の引率者が乗船している。

4. NPO 法人の運営状況

(1) 会員数とボランティアスタッフ

NPO 法人の会員は、正会員(主に個人)と賛助会員(主に企業)がある。法人設立当初時には、地域の方々の協力支援ということもあり正会員117名、賛助会員約19名(2007年度実績)であったが、運航事業がある一定の軌道にのってきたこともあり、近年は横ばい傾向にある。しかしながら、現在でも賛助会員には、堺市の中心市街地にある商店街や堺を代表するホテルなど様々な団体の支援があり、またクルーズ運航時には、堺の有名老舗銘菓店からの差し入れもあるなど地域に密着したNPO 法人であることがうかがえる。

ボランティアスタッフは、船舶免許をもった船長で約10名、ガイドが約15名、事務(乗船手続きなど陸上業務)が約10名であり、入れ替わりがあるため平均して30から40名程度がスタッフとして活動に参加している。特にガイドは、運航の評判にも繋がるため、冬季にはガイド養成講座を設けてガイド育成に力を入れている。

(2) 運営費用

NPO 法人の2013年度の主な運営費用として、正会員(1万円)と賛助会員(3万円)からの会員収入、運航収入(大人1000円、小人500円)、オリジナルTシャツや飲料品販売などの物品販売収入がある。一方、支出としては、観光船事業の停泊料(約30万円)や損害保険

料（約19万円）、燃料費（約7万円）、広告宣伝費（約10万円）などの支出があり、年間の主な収支差は約40万円となっている。

2008年度に現在の新艇を約500万円で購入するなどこれまでに借入があったが、2013年度ようやく返済が完了している。

5. おわりに

観濠クルーズ Sakai は、もうすぐ10周年を迎えようとしている。この10年間の活動でようやく収支が落ち着きはじめたところであるが、まだ、堺市民の多くはこのクルーズの存在を知らないので周知活動を行うこと、スタッフなどの活動気力をあげる

ためにまず乗船者数の増加を図ることが今後の取り組みであると理事長は述べる。またさらなる展開として、活動地域には旧市街地として堺市の歴史的な財産が多くあり、その地域をまち歩きしてもらえるきっかけとなることを期待しているとも述べている。

理事長である T 氏は、20歳代の頃から内川・土居川の清掃活動に取り組んできた。その清掃活動の際に、趣味のカヌーを使い始めたことや堺の歴史的な遺産に着目したことによりこのNPO法人の活動がはじまっている。まだ課題はあるが、堺市の中心市街地にある資源を活用していることは、観光客を呼び込む可能性やまちの活性化にも繋がるものと考えられる。

参考文献

観濠クルーズ Sakai ホームページ

<http://www.kc-sakai.com/>

観濠クルーズ Sakai 「総会議案書」

堺市ホームページ「わたしたちの川 内川・土居川」、堺市建設局土木部河川水路課

<http://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/doro/doboku/kasensuiro/suikankyo/watashitachikawa.html>

高杉晋（2009）「観濠クルーズ Sakai の取り組み－市民が憩う川辺をめざして－」『Urban』第21号、pp 62-68、財団法人堺都市政策研究所

表1 2013年度 主な運営費

収入の部	金額（円）
会員収入	610,000
観光船運航事業収入	1,604,600
物品販売事業収入	510,100
雑収入	79,837
収入合計	2,804,537
支出の部	金額（円）
観光船運航事業費	1,549,358
物品販売事業費	535,181
管理費	309,187
支出合計	2,393,726

出典：法人資料をもとに筆者編集